

## 1、研究の目的

標高約 2300m のメキシコ盆地に位置するテオティワカン遺跡は、紀元前1世紀から紀元後6世紀頃まで栄えたアメリカ大陸最大級の都市国家であった。「月のピラミッド」の発掘は、1998年に愛知県立大学の杉山三郎教授とメキシコの国立人類学歴史学研究所のルベン・カブレラ氏を共同発掘団長として、古代都市の起源と複合社会の形成メカニズムを歴史的に復元することを目的に開始した。筆者は1999年から「月のピラミッド」考古学プロジェクトに参加し、土器の分析を担当した。本稿は、その成果をまとめたものである。本研究には、3つの研究目的がある。

第1の目的は、「月のピラミッド」の土器の分類、分析を通して、テオティワカンの土器編年を洗練し、よりわかりやすい土器資料の提示を試みることである。本研究で取り扱う土器資料は、「月のピラミッド」の建造物に伴う資料であり、建造物の増改築と関連付けて解釈できる土器資料である。テオティワカンの土器の編年に関する研究は、現在ラットレイの研究が一つの基準となっている。しかし、ラットレイの研究成果やテオティワカンの土器の報告書にいくつかの課題がある。本稿では、これらの課題を踏まえて、土器の資料提示に当たっては、土器の3枚の写真（表面、裏面、胎土）を1セットとして提示することを試みる。4章はパトラチケの土器、5章はサクワリ期の土器、6章はミカオトリ期の土器、7章はトラミミロルパ期の土器をこの新しい方式で記述する。このような土器1個体ごとの写真資料の提示は、従来どの報告書にも見られなかったものであり、客観的資料としてその価値は高い。今後、本稿の土器データは、テオティワカン遺跡における様々な調査やテオティワカン以外の地域での調査で出土する土器の比較資料として有効に活用される。また、4章で述べるパトラチケ期の資料はテオティワカンの起源を考える上でも重要な資料となりうる。

第2の目的は、「月のピラミッド」の各建造物の年代決定を土器の分析から行うことである。「月のピラミッド」では、7回の増改築が行われて現在の「月のピラミッド」が作られた。最も古い建造物1から建造物7までのそれぞれの建造物の時期決定を土器から行う。建造物の建築年代の決定においては、放射性炭素による年代決定がよく使われるが、それぞれの建造物の盛土からどの時期の土器がどのような割合で出土するののかに関するデータ、すなわち土器の時期別構成比も重要である。

第3の目的は、「月のピラミッド」と他のモニュメントの関係を検討することである。「月のピラミッド」の7つの建造物がそれぞれ「太陽のピラミッド」や「羽毛の生えた蛇神殿」とどのような関係にあるのかを検討する。「太陽のピラミッド」や「羽毛の生えた蛇神殿」の調査に直接参加していないので、今までの研究成果をもとに検討する。

## 2、研究の成果

### 2-1、各時期の土器の編年研究

4章ではパトラチケ期（1,125 個体数）、5章ではサクワリ期（1,823 個体数）、6章ではミカオトリ期（838 個体数）、7章ではトラミミロルパ期（416 個体数）の土器を分析し、その特徴を記述した。この記述は、従来の文字中心の記述ではなく、写真を活用し、より客観的な資料提示を行った。発掘によって大量に出土する土器は、本稿の資料と比較する

ことにより誰でも容易に土器の分類や器種の決定、時期の決定ができるようになった。

また、Burnished Ware の大型壺や Polished Ware の碗, Painted Ware の碗に関しては、時期ごとの胎土の変化について論じた。

## 2-2、各建造物の年代決定

各建造物における土器の時期別構成比ならびに放射性炭素年代決定法により、それぞれの建造物の年代決定をつぎのように結論づけた。

56 層：サクワリ期

建造物 1：サクワリ期

建造物 2：ミカオトリ期

建造物 3：ミカオトリ期

建造物 4：ミカオトリ期

建造物 5：トラミミロルバ期

建造物 6：トラミミロルバ期

建造物 7：トラミミロルバ期

## 2-3、「月のピラミッド」と「太陽のピラミッド」、「羽毛の生えた蛇神殿」との関係

「月のピラミッド」出土の土器の分析からは、「月のピラミッド」の各建造物の建築年代を決定することしか出来ないが、これまでのテオティワカンの研究を踏まえて、それぞれの建造物との関係を考察した。

＜サクワリ期＞

まず、「月のピラミッド」でサクワリ期に属するのは、建造物 1 である。建造物 1 は、建造物 1 の軸は一般的に知られているテオティワカン建造物の東西軸より、東軸が北に 3 度ずれていることが報告されている。また、pre-Ciudadela の報告によると、「月のピラミッド」の建造物 1 と同様に、テオティワカンの基本軸よりずれていることが報告されている。従って、この 2 つの建造物は、現在見られる都市建設が始まる以前の建造物であると考えられる。サクワリ期のテオティワカンの中心部には、北側には小型の「月のピラミッド」の建造物 1、南側には pre-Ciudadela の建造物があったと解釈できる。

＜ミカオトリ期＞

第一に、「月のピラミッド」では、建造物 1 を覆い隠しながら、建造物 2、建造物 3 の小規模な増改築が行われる。これらの建造物の方向は、徐々にテオティワカンの基準の方向に近づく。この建造物 2、建造物 3 に対応する建造物が、「太陽のピラミッド」の建造物 1、「羽毛の生えた蛇神殿」の pre-FSP であると考えられる。

次に、大規模な増改築が行われ、建造物 4 が建設される。この建造物に対応するのが、「太陽のピラミッド」の本体、「羽毛の生えた蛇神殿」の本体部分であろうと思われる。また、「死者の通り」もこの時期に作られたと考えられ、テオティワカンの中心部が完成する時期である。「太陽のピラミッド」の建築年代は、仮説的な部分であるが、少なくとも「月のピラミッド」の建造物 4 と「羽毛の生えた蛇神殿」とは同時期であると考えられ、これらの建造物の大きさ、また多くの生贄墓の存在から、強力な力を持った人物の存在が示唆

されている。

<トラミミロルパ期>

「月のピラミッド」では、建造物5、建造物6、建造物7がトラミミロルパ期に建設された。建造物5では、新しい建築様式としてタルー・タブレロ様式を持つアドサダが建設された。「月のピラミッド」のアドサダは、建造物4の南側の面を削って建造物1、建造物2、建造物3を覆う位置に建築された。これ以後「月のピラミッド」では、この建築様式を踏襲するように建造物6、建造物7が建築される。

また、建造物6から発見された墳墓5からは、マヤの高貴な人が身につけるヒスイのペンダントが見つかっており、マヤ文化と関係のある高貴な人物が生贄にされた可能性を示している。

また、「太陽のピラミッド」、「羽毛の生えた蛇神殿」においてもアドサダが作られる。テオティワカンの中心部分では、「月のピラミッド」の建造物7の建築以後、これらの3つのモニュメントでは建築活動は行われず、「死者の通り」の周辺にアパート建築活動が盛んになる。